H06959S

施工説明書

2011.1

TOTO

静音ワンピース便器（壁排水）

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

安全に関するご注意（安全のために必ずお守りください）

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。
この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

表 示	意 味
⚠注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

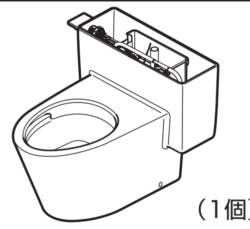
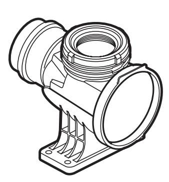
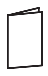
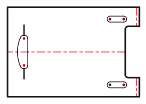
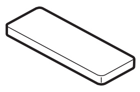
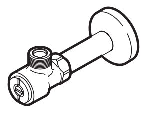
🛇	🛇は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「禁止」を示します。	❗	❗は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

⚠注意

禁 止	**陶器に強い力や衝撃を与えない** 陶器が破損してけがをしたり、水漏れして家財などぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	給水フレキホースを無理に折り曲げたり、たばこの火やカッターなどで、傷をつけない 給水フレキホースが破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	止水栓を開けたままで、給水フィルターを外さない 水が噴き出します。
必ず実行	**設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する** 正常な取り付けができなくなる可能性があります。
	設置工事は、この説明書に従って確実に行う 故障や水漏れの原因になります。

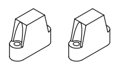
同梱部品

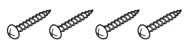
※部品があるか、下記を参照して確認してください。

便器本体	排水ソケット	その他
 （1個）	 （1個）	施工説明書（1枚）  取扱説明書（1冊）  位置決めシート（1枚）
タンクふた	止水栓	
 （1個）	 （1個）	

固定片・固定金具類

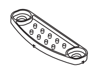
<固定片A用>


固定片A（2個）

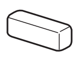

木ねじ（φ6×50：4本）

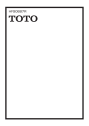
ワッシャー（4枚）

<固定片B用>

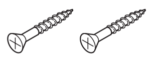

固定片B（1個）

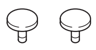
木ねじ（φ6×40：2本）

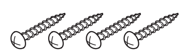

接着ブロック（1個）



接着ブロック注意書（1枚）
※クラフト紙に印刷しており、接着ブロックを包んでいます。

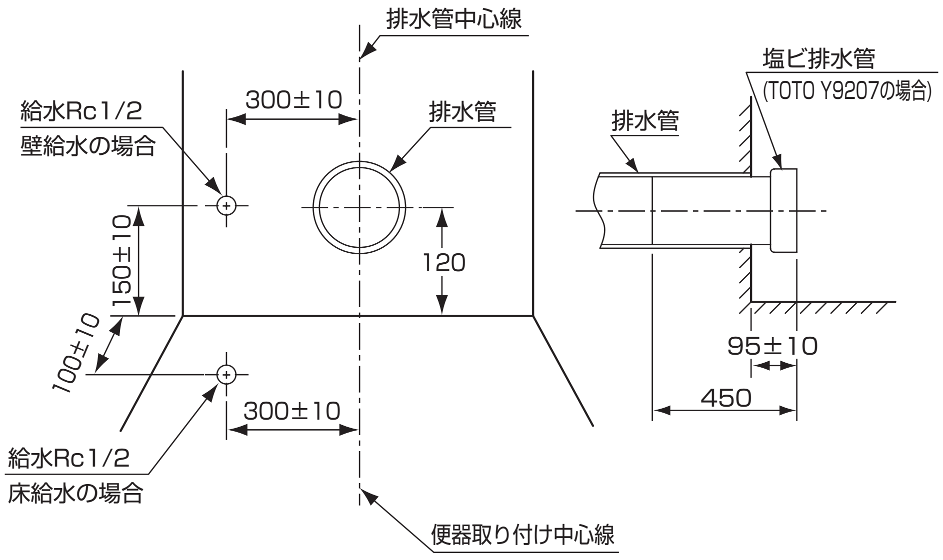

皿木ねじ（φ5.8×63：2本）


化粧キャップ（2個）


木ねじ（排水ソケット用）（φ6×60：4本）

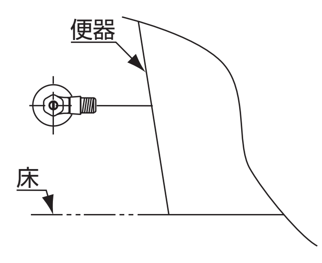
取り付け前のご注意

施工前に、給水取り出し位置および排水管位置が所定の位置にあることを確認する。

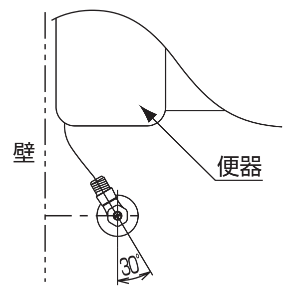


止水栓の取り付け方向

〈左壁給水の場合〉



〈左床給水の場合〉

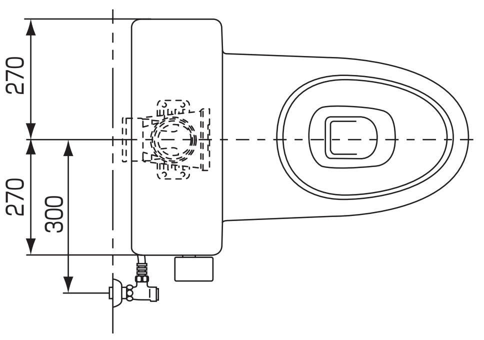


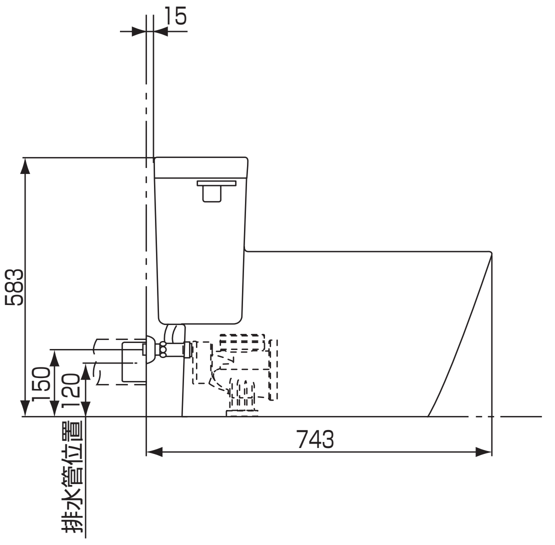
※器具を取り付ける前に、必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

商品セット図

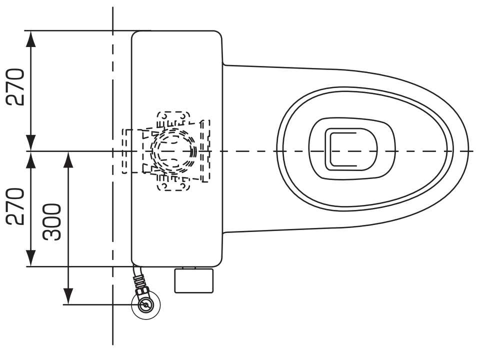
（単位：mm）

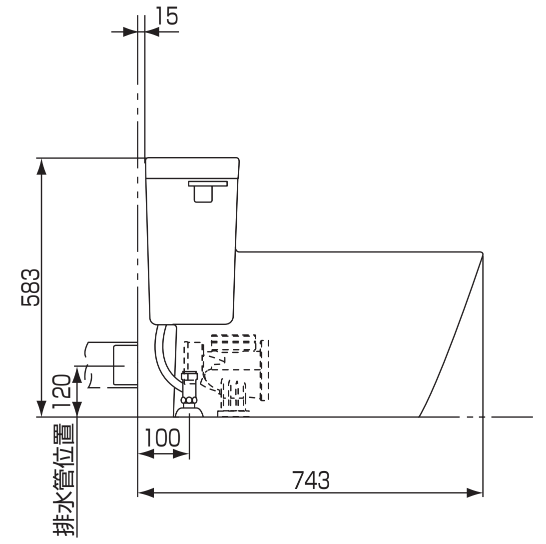
施工完了図（壁給水タイプの場合）



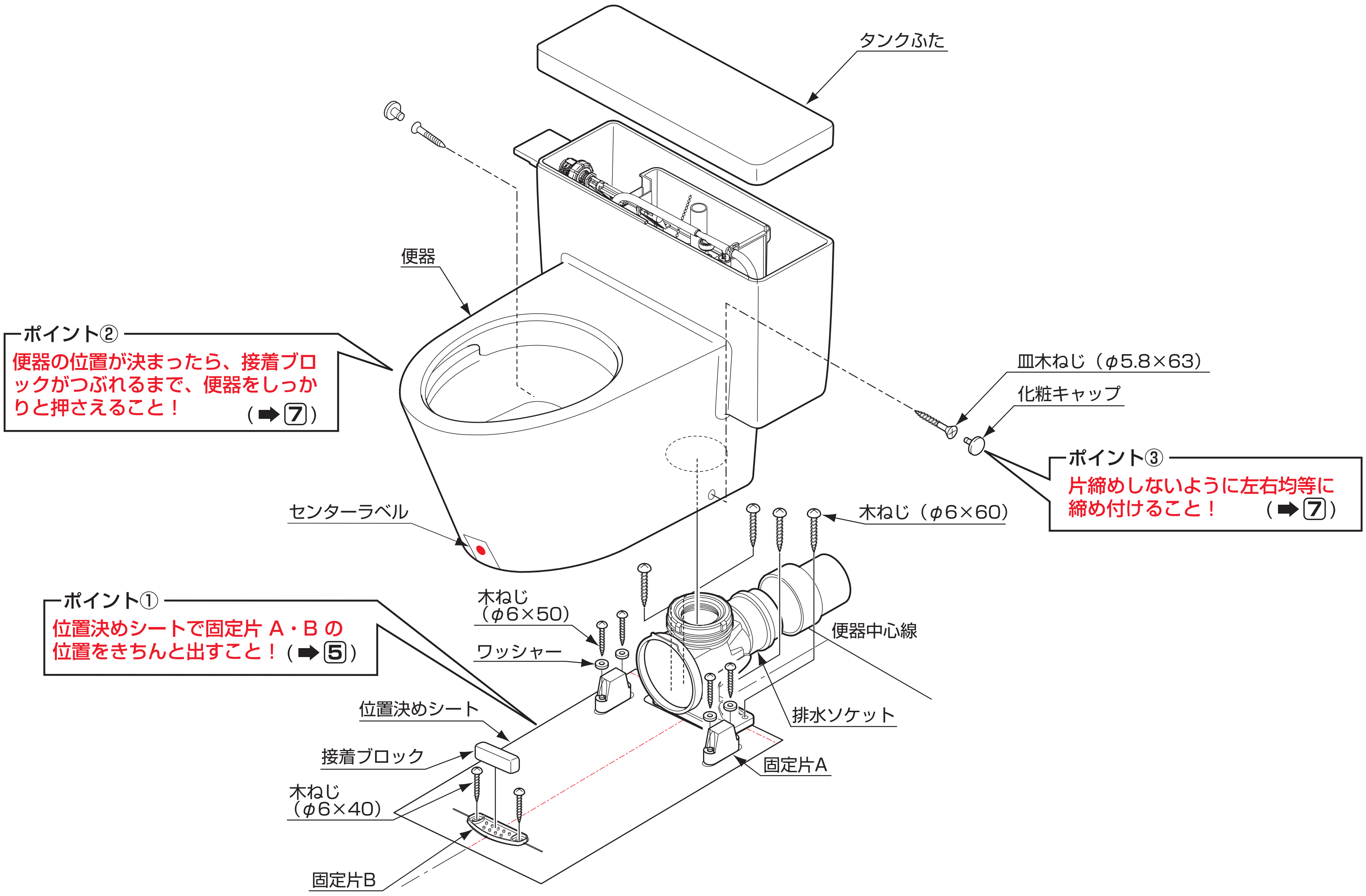


施工完了図（床給水タイプの場合）





各部のなまえと施工のポイント

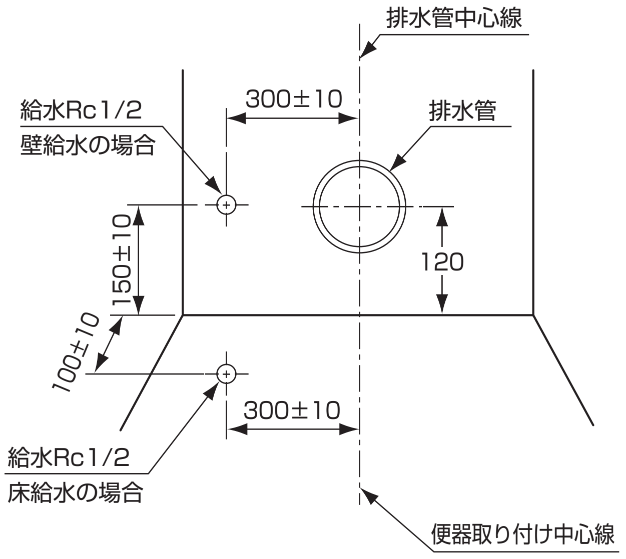


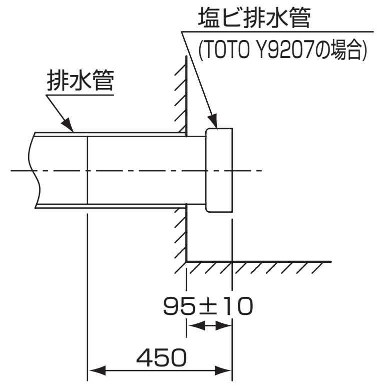
取付方法

1 給・排水管の取り出し

（単位：mm）

給・排水管を所定の位置に取り出す。





⚠注意

必ず実行

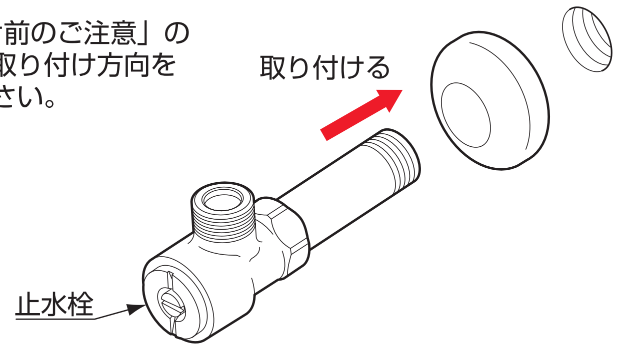
排水管の切断面にバリ・汚れがないことを必ず確認する

切断面にバリ・汚れが残っていると、排水ソケットとの接続が不十分となり水漏れし、家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

2 止水栓の取り付け

止水栓を所定の位置に取り付ける。

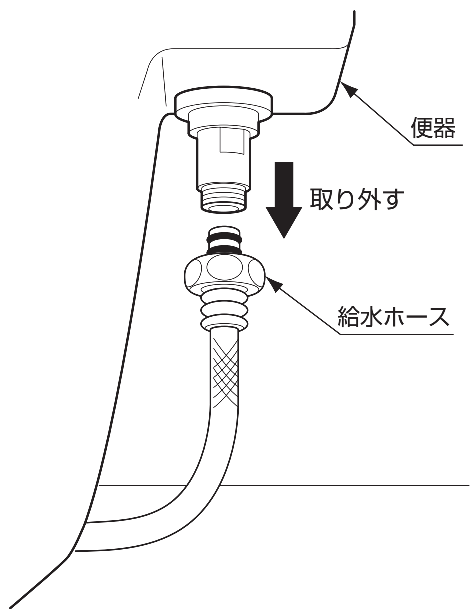
※「取り付け前のご注意」の止水栓の取り付け方向を確認ください。



3 便器から給水ホースを取り外す

給水ホースの折れを防止するために、便器から給水ホースをいったん取り外す。

「7 便器取り付け」のあとに再度取り付けます。

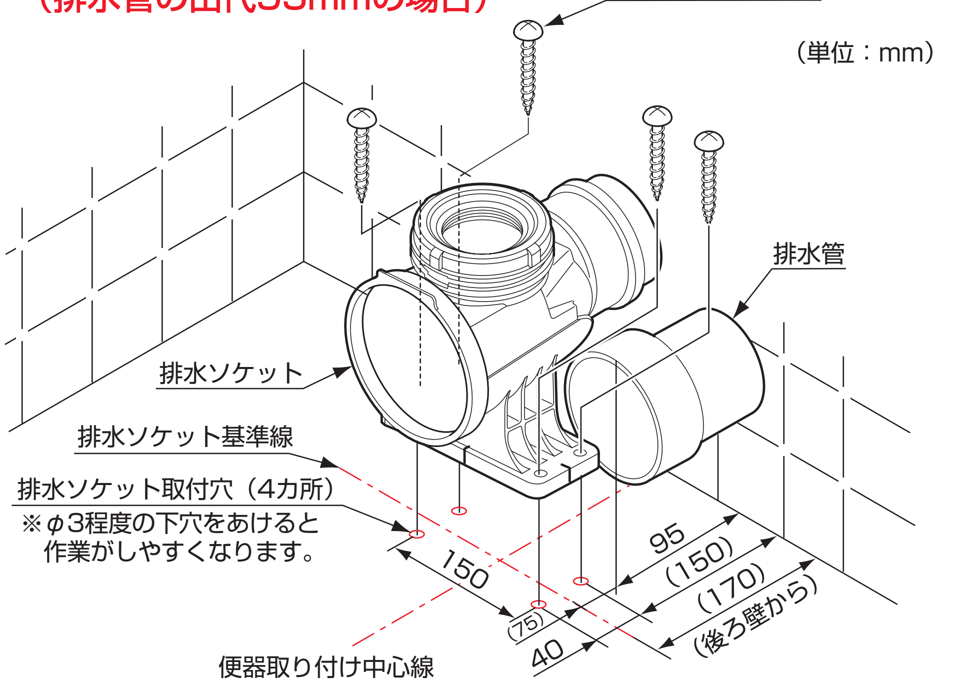


裏面につづく➡

4 排水ソケットの取り付け

❶便器取り付け中心線をけがく。
❷下図を参照して排水の接続が所定の位置になるように排水ソケットを仮置きする。
※このとき、便器取り付け中心線と排水ソケット基準線がほぼ一致するように注意してください。
❸排水ソケット基準線をけがく。
❹排水ソケットを外し、排水ソケット取付木ねじ位置をけがく。
※床に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。
❺排水管に排水ソケットを奥まで差し込み、便器取り付け中心線および排水ソケット基準線に合わせ、木ねじで排水ソケットを固定する。

（排水管の出代95mmの場合）

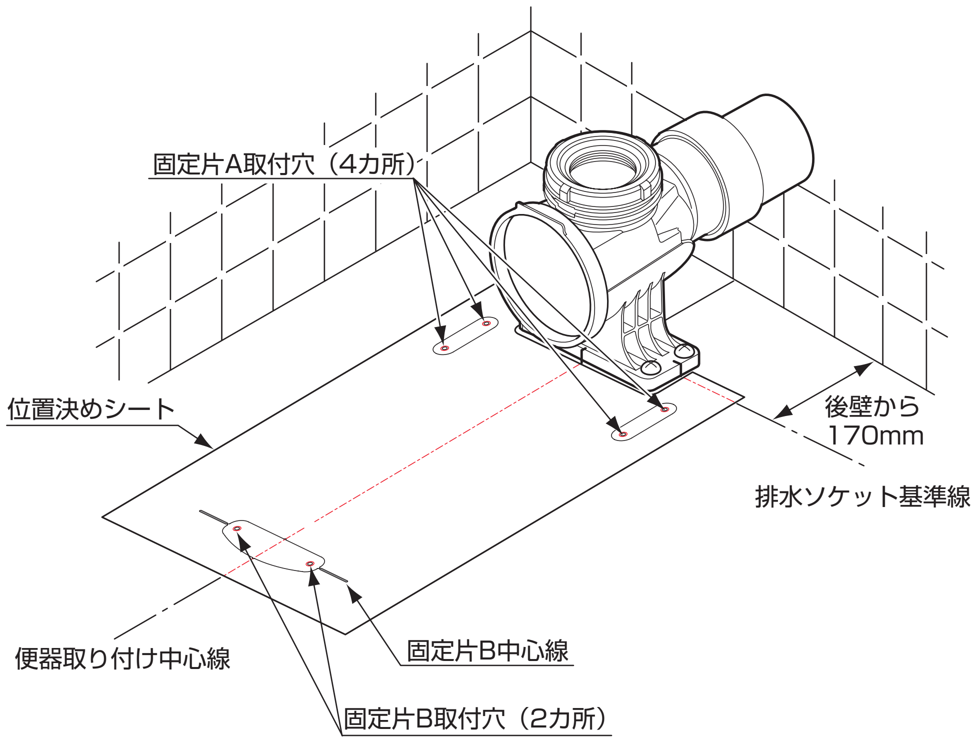


⚠注意

必ず実行	**排水管の取り出し代が85mm未満の場合は、便器が取り付けられないので、注意する** 壁に便器が干渉するおそれがあります。

5 位置決めシートにて固定片取付穴位置をけがく

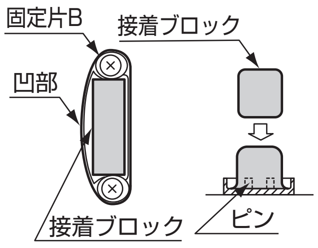
❶位置決めシートを排水ソケット基準線と便器取り付け中心線に合わせて床面に置く。
❷固定片A・Bの取付穴位置、固定片B中心線をけがく。
❸位置決めシートを外す。
※床に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



6 固定片の取り付け

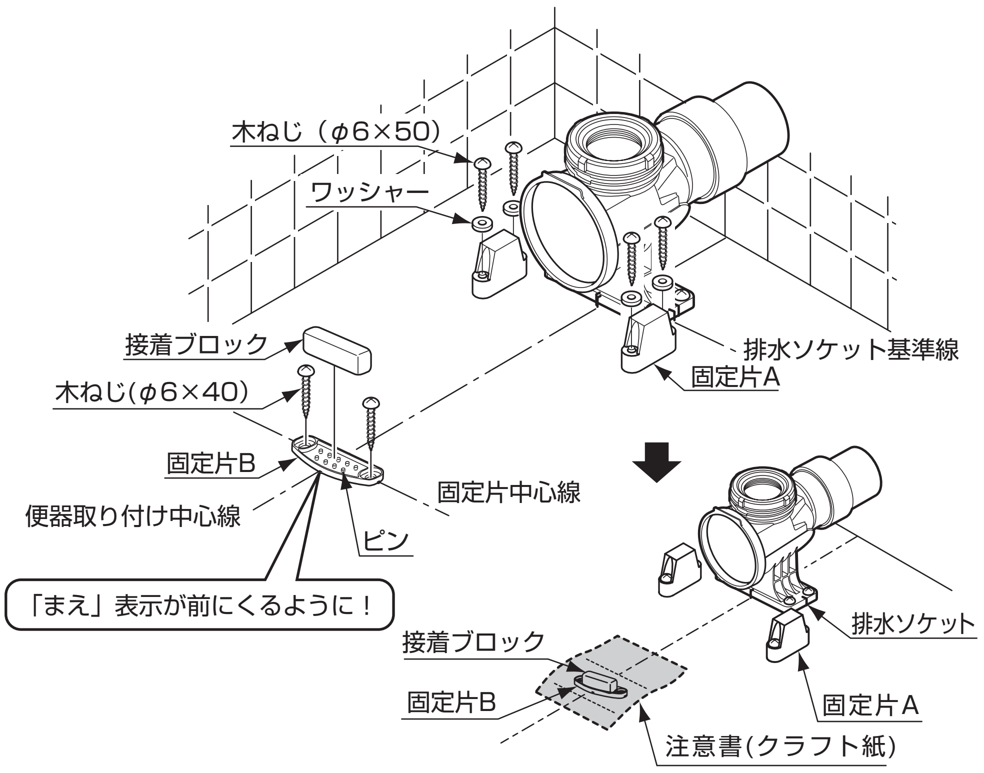
❶固定片A・Bを所定の位置に、木ねじにて固定する。
※壁側は固定片A（2カ所）、前側は固定片B（1カ所）となります。
❷固定片Bは、図のように接着ブロックを固定片Bの凹部のピンに差し込み、その後指で軽く押す。
❸接着ブロックの上に付属の注意書（クラフト紙）をかぶせる。
※印字のないツルツルの面を下向きにしてください。

<接着ブロックについて>



※施工直後のやり直しの際は、接着ブロックの形を左図のように整えてください。
※接着ブロックの方向性は特にありません。
※気温が下がると接着ブロックが固くなることがありますので、このときは、20～30℃のぬるま湯の中に、包装袋ごと入れて柔らかくして使用してください。

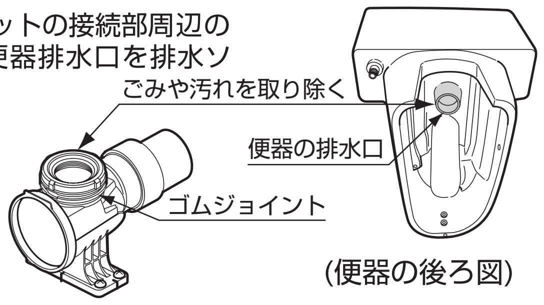
※詳細は、接着ブロックに付属の注意書を参照ください。



7 便器の取り付け

手順1

❶便器排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、便器排水口を排水ソケットに差し込む。
※便器の持ちかたは下図を参考にしてください。



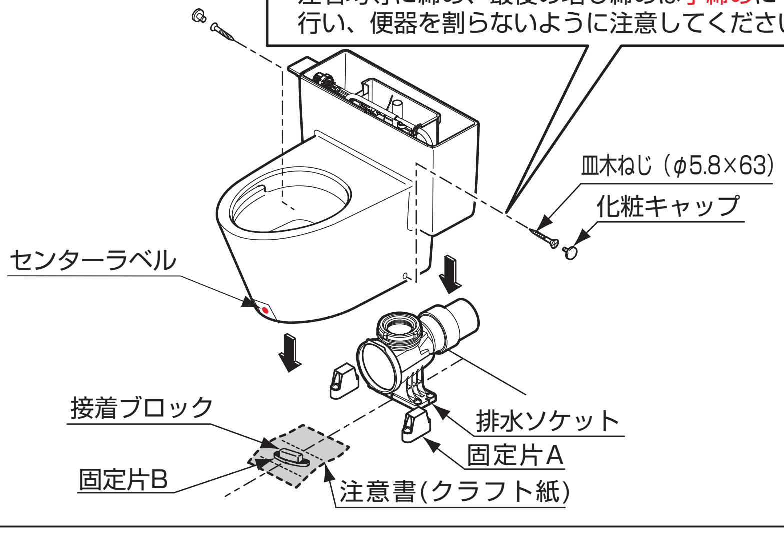
(便器の後ろ図)

❷センターラベルを基準に便器の位置を微調整する。
❸便器先端を少し持ち上げ、固定片の上のクラフト紙を引き抜く。
❹接着ブロックがつぶれるまで、便器をしっかりと押さえる。
❺センターラベルをはがす。

便器の持ちかた

手順2

便器側面の取付穴に皿木ねじをねじ込み、ねじの頭に化粧キャップを差し込む。
左右均等に締め、最後の増し締めは手締めにて行い、便器を割らないように注意してください。

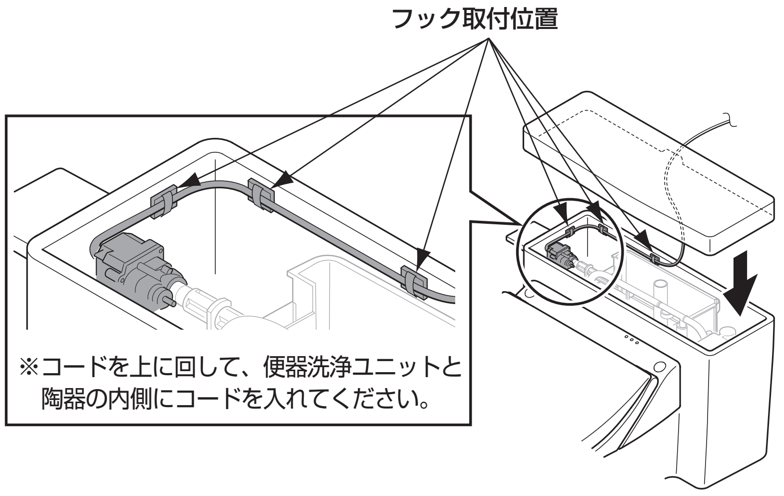


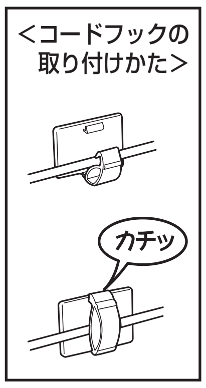
便器洗浄ユニットの場合

8 コードフックの取り付けとコードの配線

❶コードフックをはり付ける。
※水滴をふき取り、付属のサンドペーパーでこすり、水につからない位置に貼り付けてください。

❷コードはふたの切り欠き部とタンクの下側を通して配線する。
※コードをふたでつぶさないようにしてください。





（図はアプリコットF）

<タンク内側>

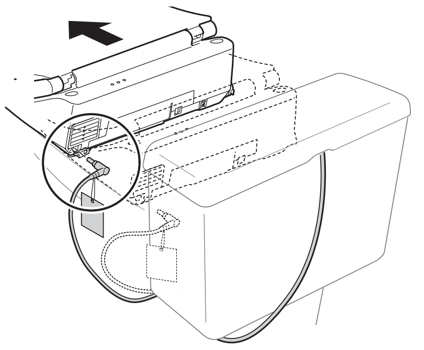
注　意

タンク内側のコードが同梱部品に引っ掛からないように、コードフックを使って配線してください。
コードが同梱部品に引っ掛かると、止水不良の原因となるおそれがあります。

<タンク外側>

注　意

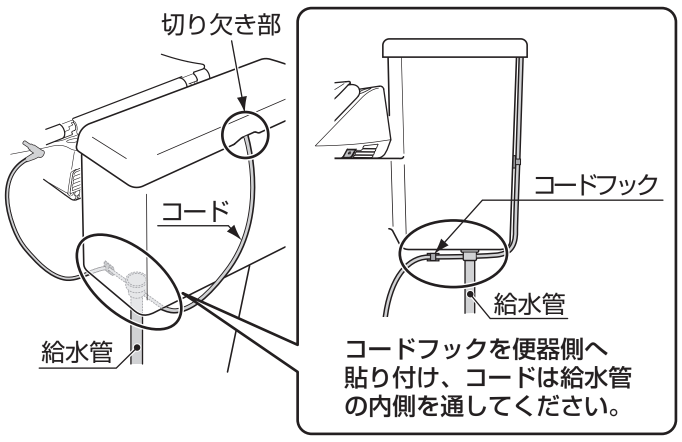
タンク外側のコードはウォシュレットの着脱ができる余裕を設けてください。



<タンク外側>

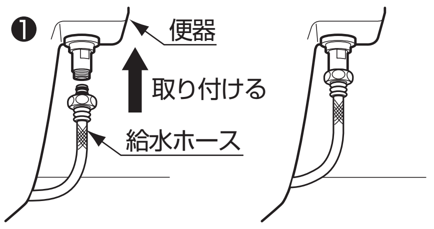
注　意

タンク外側のコードはウォシュレットの着脱ができる余裕を設けてください。



9 給水ホースの取り付け（普通便座の場合）

❶便器に給水ホースを取り付ける。
❷止水栓に給水ホースを取り付ける。
・給水ホースにねじれ、折れなどのないように接続する。
・パッキンを下図の位置に必ず組み込む。

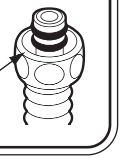


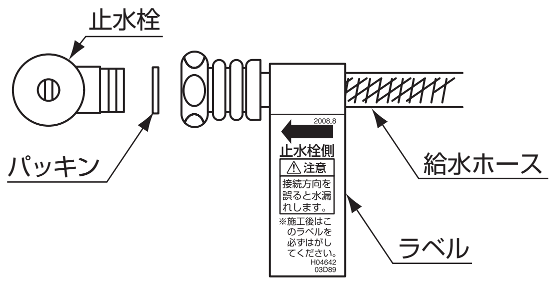
⚠注意

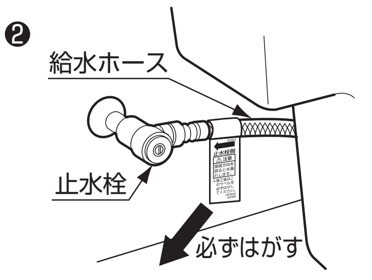
必ず実行

・必ずOリング側を便器に取り付ける
・Oリング側を取り付ける際に、Oリングが脱落していないことを確認する

水漏れして家財などをぬらし、財産損害発生のおそれがあります。







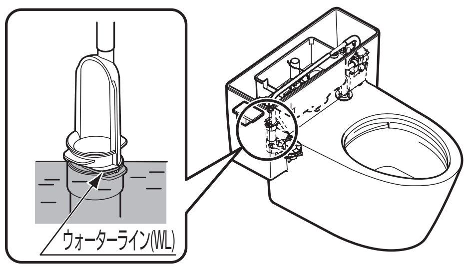
※ラベルは給水ホースを取り付けたあとに必ずはがしてください。
※ウォシュレットの取り付けに関しては、ウォシュレット付属の施工説明書をご覧ください。

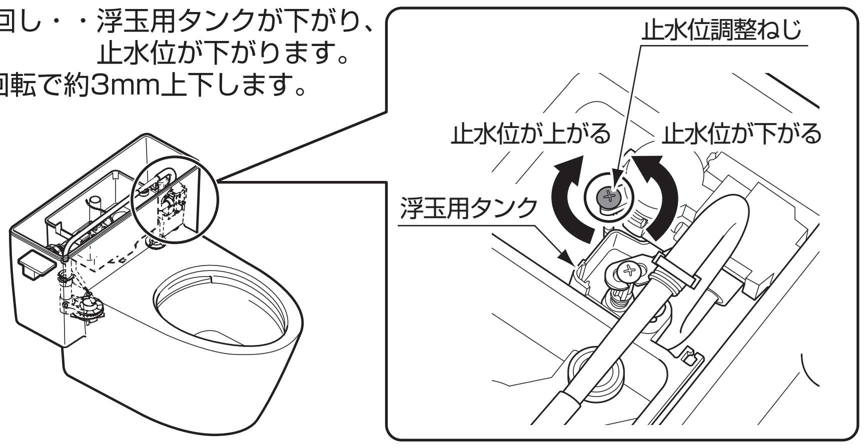
10 止水位の確認

ウォーターライン（WL）に止水位が合っているかを確認する。
（右図参照）
※ウォーターライン(WL)は、下から2番目です。

合っていない場合は、プラスドライバーで浮玉用タンクの高さを調整して、止水位を調整してください。

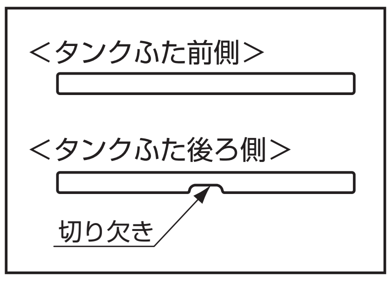
右回し・・浮玉用タンクが上がり、止水位が上がります。
左回し・・浮玉用タンクが下がり、止水位が下がります。
※1回転で約3mm上下します。

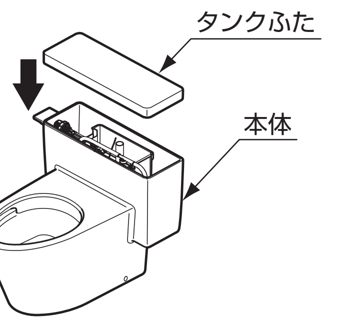




11 タンクふたの取り付け

タンクふたを取り付ける。
※前後方向に注意してください。
（中央部に切り欠きがある方が後ろになります）



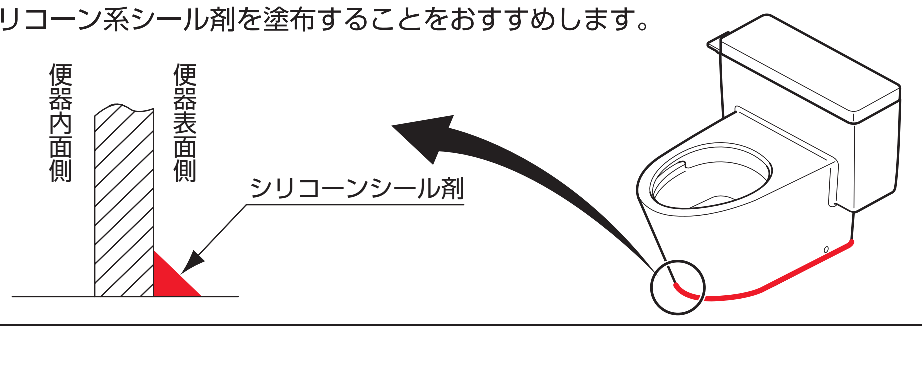


取り付け後の確認

・試運転（洗浄）後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。
もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。

・陶器表面に傷などがないことを確認してください。
陶器表面に金属類（時計のバンド、ベルトのバックルなど）が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。
スジ状の跡が付いた場合は、研磨剤入りの洗剤などで軽くこすって除去してください。

・施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ（コーキング剤、配管用接着剤など）の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤（研磨剤なし）を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。

お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング（木質系）を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。
フローリング（木質系）を使用される場合は、便器袴下部周囲に防カビ性の透明シリコーン系シール剤を塗布することをおすすめします。